

世界 あの人この人

—第3回—

シリーズ3回目となる今回は、ヴァイオリンと尺八などを用いた独特のスタイルで、日本古来の文化の深さを世界に発信する努力を続けられ、今年、第1回埼玉グローバル賞を受賞された山内達哉さんです。

ヴァイオリニスト、音楽プロデューサー、作曲家 **山内 達哉** さん



▲スコットランド エディンバラ「セント・アンドリュース・アンド・セント・ジョージウエスト教会」にて



▲スコットランド インバネス
「Eden Court Theatre コンサート」



▲スタンディングオーベーション



▲スコットランド インバネス「Town House コンサート」

私は幼少の頃クラシックのバロック音楽に惹かれ、将来は海外オーケストラで演奏したいという夢を抱きながら音楽の道に進みました。しかし音大時代、音楽を勉強していくほど、クラシック音楽にさらに惹かれていくと同時に、日本で生まれ育った自分が海外の作曲家の曲を演奏する事に違和感を感じ、また、その頃より日本各地を演奏で訪れる事が多くなり、自分の生まれた日本はこんなに美しく、魅力ある国だったのだと改めて感動する事が多くありました。そして音楽にのせて「日本の心」を伝えたいという想いが溢れ出し、ヴァイオリンと和楽器の共演というスタイルで、日本各地の風景や歴史などをテーマに作曲・演奏を行い、いずれ世界各国の方々へ音楽を届けたいという想いで活動をしてまいりました。

そして数年前、偶然友人の代わりに海外公演を行う事になり、滞在先近くの日本国総領事館へ一枚のCDを持ってご挨拶に伺うと、そこから海外での活動の輪が広がっていきました。海外でも「日本の心」と題し、オリジナル曲をはじめ、日本でも親しまれている各国の民謡をアレンジし、演奏しました。すると、「目の前に風景が広がるようだ」「故郷を思い出し温かい気持ちになった」と来日の有無を問わず、このようなコメントを多くいただき、国境を越えて音楽で共感できる事に感激し、「世界は一つ」と身をもって実感しました。自分の活動だけでは大きな事はできませんが、マザーテレサの「世界平和は家庭から」という言葉のように、身近な人やふるさと、また先祖への感謝を大切にすることでよりよい日本を、そして、よりよい世界を作り上げる第一歩になるのだと思っています。

先日は、兵庫県朝来市で行われた「ASAGO国際音楽祭2012」にスコットランドよりバグパイプ奏者をゲストにお呼びし、「天空の城」と呼ばれる国史跡「竹田城跡」にて演奏を行いました。スコットランドの日本総領事館より、日本とスコットランドの架け橋になっていただき大変嬉しいとの言葉をいただきましたが、今の自分があるのも多くの方々の温かいご支援の賜物だと思っています。その絆が私にとって宝であり、音楽を通して人と人が繋がりに国際交流できる事に幸せを感じております。

これからも自分自身、自国の事を勉強しつつ、それを音楽にのせて多くの方々に伝えていきたいと、そして私の音楽を聴いて日本の文化に誇りを持ってもらえる機会になればと思っています。

★山内達哉氏 オフィシャルサイト <http://www.office-kon.jp/>